2017 年 11 月 17 日
オイシックスドット大地株式会社
ヤマト運輸株式会社

オイシックスドット大地とヤマト運輸が農産品物流の課題解決に向け共同研究「ベジネコ」プロジェクトを開始

有機・特別栽培の農産物やミールキットなどの食品宅配を展開するオイシックスドット大地株式会社(東京都品川区、代表取締役社長：高島　宏平、以下、「オイシックスドット大地」)と、ヤマトホールディングス傘下のヤマト運輸株式会社（東京都中央区、代表取締役社長：長尾　裕、以下「ヤマト運輸」）は、本年 10 月より、生産者が抱える農産品物流の課題を解決することを目的に、共同研究を開始したことをお知らせいたします。共同研究は「ベジネコ」プロジェクトと呼称し、研究期間は来春までを予定しています。

記

【共同研究の取組み概要】

食料需給や購買活動等が変化する中、生産者は、地域や気候を生かして多種多様な農産品を生産し、市場や小売店などへの納品といった物流の手配まで行っています。一方で、近年の物流業界におけるドライバー不足等の影響により、品質管理や納品時間などの要望に応えられる運送事業者が少なく、農産品物流に課題を抱えています。

「ベジネコ」プロジェクトにより、オイシックスドット大地とヤマト運輸は、それぞれが有する生産者ネットワークと輸送ネットワークを組み合わせ、生産者が個別に手配する輸送手段を統合し、ヤマト運輸の全国約 4,000 箇所の営業所を活用するなど、安定的かつ効率の良い物流の構築等を共同研究します。

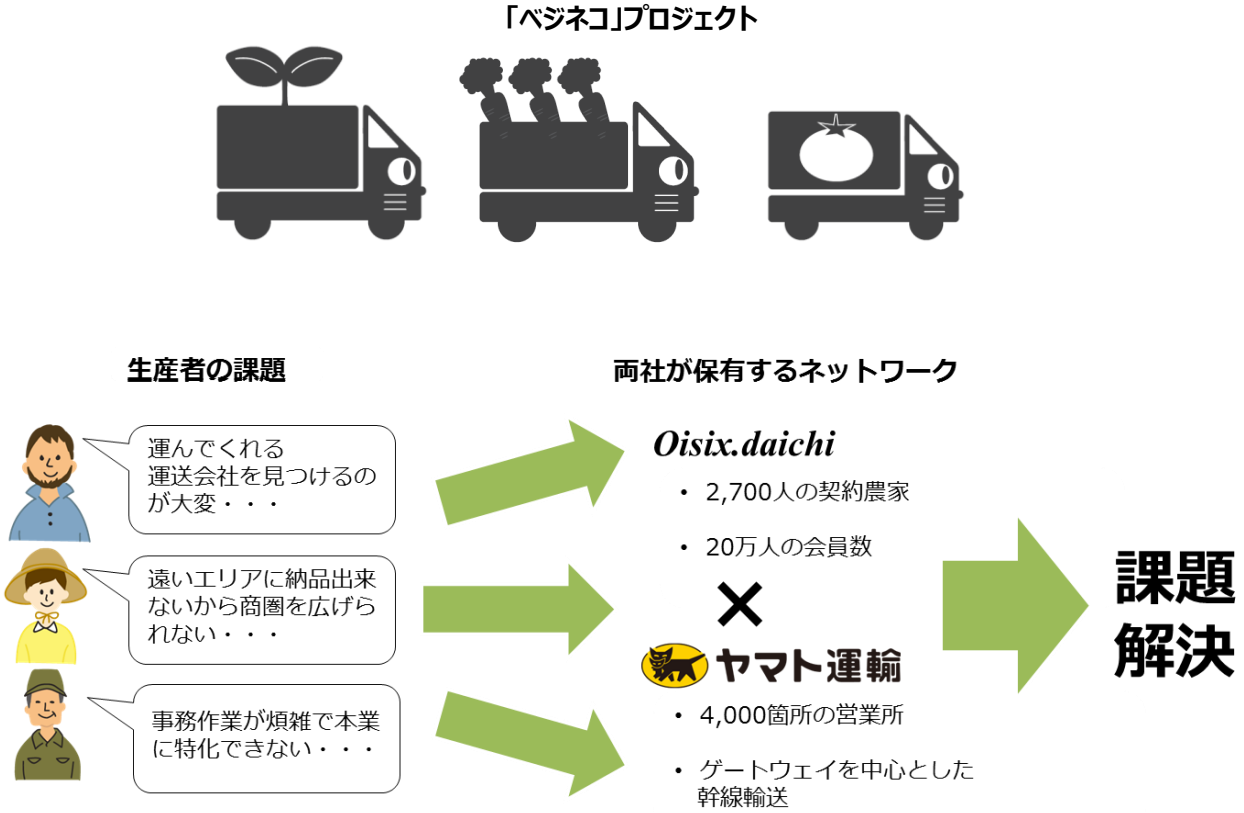
さらに、ヤマト運輸の物流ターミナルからオイシックスドット大地の物流センターへ、必要な農産物を必要なタイミングで一括納品する仕組みを構築し、倉庫への配送や倉庫内作業の効率化を進め、より新鮮な状態でお客さまに商品をお届けすることも目指してまいります。

本年 10 月からは、消費地からの距離が遠く、農産品物流の課題解決に向けて積極的に取り組んでいる山形県の生産者の方々にご協力いただき、フィールドワークを開始し、新たな輸送スキームの構築などについて、テスト運用を実施しています。

今後、山形県での物流課題をより深く研究するとともに、2018 年 1 月からは宮崎県でもテスト運用を実施する予定です。

また、「ベジネコ」プロジェクトはオープンプラットフォームとして、農産品に関わるさまざまな事業者の参画も視野に入れ、農産品物流の効率化とともに、生産者の販路拡大も支援してまいります。

【共同研究の取組みイメージ】



以上